



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 241

2016/11/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. 明治39年の美幌
02. エゾホトケドジョウが捕まらない



今月の一枚

Photo

「空に架かる^{みどり}美禽橋」

表紙写真・文／八重柏誠

博物館の上空は晴れているのに、大粒の雨が降ってきたことがありました。いわゆる「天気雨」と呼ばれる雨です。この雨が降っているときは、綺麗な虹を見ることができる可能性が高いので、カメラを片手に、博物館を飛び出しました。すると、北東の空に虹の姿が。美幌市街地と博物館のある美禽地区をつなぐ虹は、空に架かる「美禽橋」のようでした。

Event. 今月のイベント

ロビー展「アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～」 ～11月27日(日)

交通安全ポスター作文展 11月3日(木)～23日(水)

博物館講座(自然編)「背中にマイカカタツムリを知ろう」 11月12日(土),13日(日)

プチ工房「よく飛ぶプラスチックトンボ」 11月10日(木),17日(木)

モノ作り講座「ガラス玉を作ろう」 11月19日(土),20日(日)

Information. 参加者募集

博物館講座(自然編)「背中にマイカカタツムリを知ろう」

【講演会】●11/12(土)16:00-17:30 ●美幌博物館2F視聴覚室 ●無料 ●森井悠太氏(北海道大学) ●申込み不要 【観察会】●11/13(日)9:30-12:30 ●町内(集合解散は美幌博物館) ●保険料(100円), 野外で活動できる服装,帽子,長靴,雨具 ●森井悠太氏(北海道大学) ●美幌博物館へ電話申込み(10/1-11/9)。キャンセルは11/9まで。それ以降は保険料100円がかかります。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要、定員25名で締切。荒天時は室内学習を実施します。

プチ工房「よく飛ぶプラスチックトンボ」

●11/10(木),17(木)10:00-12:00,14:00-16:00自由に入室。作品ができたなら終了 ●美幌博物館1F講座室 ●材料費(50円) ●鬼丸和幸(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

モノ作り講座「ガラス玉を作ろう」

●11/19(土),20(日)【午前の部】10:00-12:00【午後の部】14:00-16:00 ●美幌博物館1F講座室 ●材料費・保険料(600円),エプロン,お手元が見えにくい方は眼鏡 ●八重柏誠(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(11/1-11/16)。小学生以下は保護者の同伴が必要、各回定員8名で締切。キャンセルは11/16まで。それ以降は保険料100円がかかります。

ご自宅に古い写真ありませんか？

博物館では展示会で使用するため、明治～昭和に美幌町内の様子を写したなつかしい写真や映像を探しています。寄贈もしくは複写させていただける方は、博物館までお電話ください。寄贈・複写させていただいた方には、無料入館できる「招待券」を1枚差し上げます。

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用,持ち物 ●講師 ●申込み方法

今月の休館日

● ●
4日, 7日
14日, 21日
24日, 28日

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

明治39年の 美幌

写真／美幌博物館所蔵・文／八重柏誠



平成28年度美幌博物館 特別展「びほろ昔ばなし」は、大盛況のうちに終わることができました。明治時代の美幌の様子に驚きの声をあげる子ども達、懐かしい写真や道具を前にして、思い出話に花を咲かせるご年配の方々。親子3世代で楽しまっている様子も見ることができました。その特別展で紹介した写真の中で、私のお気に入りの1枚をご紹介します。

この写真は、明治39年（1906年）に、大通北1丁目付近を写したものです。現在の美幌警察署前付近から、北方向を撮影したものと思われます。当時、この場所には戸長役場がありました。写真の左には、戸長役場のものと思われる掲示板と、その張り紙を見ることができます。戸長役場はもともと、現在の元町地区の丘の上、美幌ユースホテル（現在休業）のあった場所に設置されていましたが、明治37年

（1904年）に写真の場所に移転しています。その前年には、美幌村の新たな中心地を決めるため、市街地の測量が行われました。この測量によって、役場や郵便局・商店・寺社用地などの場所が決められたのです。

写真を改めて見てみると、細い一本道が北に伸び、二人の男が歩いています。わずかに見られる建物の周りには、一面草原のようです。その向こうには、うっそうとした森が広がっています。この森は、現在の北4丁目あたりでしょうか、市街予定地の伐採が進み、一方、その周りには手つかずの森が広がっていたのでしょうか。

美幌町市街地の始まりの様子をうかがい知ることができる、貴重な1枚と言えるのではないのでしょうか。

.....
エゾホトケドジョウ
が捕まらない

写真・文／町田善康



物心ついた頃には川に出かけ、網を振り回して魚を採っていました。魚採り歴30年以上。既に、ベテラン漁師の域です。だから、魚採りにはちょっとした自信を持っていました。しかし、今年、採集を試みているエゾホトケドジョウは、本当に捕まえるのが難しい魚です。確実にいる場所ですら、様々な漁具を使っても、1匹も採ることができず、意気消沈で帰路に着くことが幾度もありました。なぜ、それほどまでに捕まえにくい魚なのでしょう。

エゾホトケドジョウについて少し紹介します。彼らは、8本のヒゲを持つ小さなドジョウの仲間、オス（写真上）はメス（写真下）より少し小さいです。また、オスは成長すると体の側面に1本の黒い線が現れ、メスと区別することができます。池や沼などの流れの無い場所を好み、農業用水路な

どでも見られます。夜行性である彼らは、日中には物陰に潜み、ほとんど動きません。さらに、最近、彼らが暮らす池や沼が埋め立てられ、生息数が減り、絶滅の危機にさらされています。

つまり、エゾホトケドジョウが捕まらないのは、彼らが池や沼などの湿地に暮らし、夜行性で、生息数がとても少ないことが原因といえるでしょう。

そんな中で、苦勞に苦勞を重ねてエゾホトケドジョウを見つけた瞬間は、大声で「いた〜！」と叫んでしまいます。まるで、宝物を見つけた海賊の気分です。こんな喜びがあるので、魚採りに30年以上も夢中になっているのかもしれませんが。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



今年、キノコ採りに夢中です。色々なキノコを覚え、時にはその味を楽しみます。それに加えて今年の網走川は、サケがたくさん遡上しています。美幌川の上流でも産卵しているので、気になっています。だから、天気が良ければ、山へ川へと大忙しの秋です。(町田)